

# FLORA KANAGAWA

Aug. 31. 2011 No.73

## 神奈川県植物誌調査会ニュース第 73 号

〒 250-0031 小田原市入生田 499 神奈川県立生命の星・地球博物館内  
神奈川県植物誌調査会  
TEL 0465-21-1515・FAX 0465-23-8846  
<http://nh.kanagawa-museum.jp/~kana-syoku/>  
e-mail kana-syoku@nh.kanagawa-museum.jp



図 1. キンセイランの花 (相模原市緑区 2011 年 7 月 3 日 久江信雄 撮影).

### 丹沢でキンセイランを発見

(久江信雄)

環境省レッドリストの見直し調査のため梅雨時から丹沢に入り、タンザワサカネランの現状調査を開始していたところ、2011 年 7 月 3 日に北丹沢の一角で神奈川県新産となるキンセイランを発見したので報告する。

キンセイラン *Calanthe nipponica* Makino は、北海道・本州・四国・宮崎県に分布していて、最近まで日本固有種として扱われてきたが中国西藏東南部にも産するようである。神奈川県近隣では埼玉・

東京・山梨・静岡・長野の各県に産するが、これまで本県には知られていなかった。

キンセイランは、山地の木陰に稀に生える常緑の多年草で、多くは高所、亜高山帯の樹林下に生ずる。葉は細く幅 4cm 以下で、6～7 月に花茎の上方に 5 - 12 花を疎らにつける。花は萼片と側花弁は黄緑色、唇弁は黄色で基部が赤褐色で 3 裂し、中裂片は先が尖り、中に 3 条のとさか状の隆起がある (図 1)。花には僅かに芳香がある。

もともと生育地や個体数は限られ、環境省 2007 年版レッドリストでは絶滅危惧 II 類とされている。

本種 1 株を見出した時は、7 枚の根生した葉の上から数えて 4 枚目と 5 枚目、5 枚目と 6 枚目の葉の間からそれぞれ 1 花茎を出し (図 2)、蕾は 5 つで、6 花が咲いていた。根元の脇には前年の緑色をした

葉と枯れた 1 花茎が残り、球状の偽球茎は 3 個連珠状に並んでいたことから、比較的最近になってこの地に分布したと考えられた。

キンセイランは希少種の例外にもれず、園芸目的の乱獲に遭い、個体数がさらに減少していると言われることから、今後の保護が切望される。

標本：相模原市緑区 久江信雄  
2011.7.3 KPM-NA0200294.

#### 引用文献

矢原徹一, 2003. ヤマケイ情報館 レッドデータプランツ . p.638. 山と溪谷社, 東京 .

清水建美, 1997. 長野県植物誌 . p.1493. 信濃毎日新聞社, 長野 .

傳立国等, 2002. 中国高等植物, 第十三巻 . p.609. 青島出版社, 中国青島 .

北村四郎・村田源・小山鐵夫, 1992. 原色日本植物図鑑, 草本編 III . p.54. 保育社, 大阪 .

伊藤洋 (編), 1998. 1998 年版 埼玉県植物誌 . p.284. 文化新聞社, 飯能 .  
高知県, 2009. 高知県植物誌 . p.648. 高知県, 高知 .

唐澤耕司, 1998. 原種ランシリーズ エビネ属一形態と分類 . pp.189-193. 八坂書房, 東京 .

岩槻邦男, 1994. レッドデータプランツ 日本絶滅危機植物図鑑 . p.102. 宝島社, 東京 .



図 2. キンセイラン全草 (相模原市緑区 2011 年 7 月 3 日 久江信雄撮影)。

## 茅ヶ崎市でゲンバイヒルガオを確認

(岸 一弘・岸しげみ)

ゲンバイヒルガオ *Ipomoea pes-caprae* (L.) R.Br. var. *brasiliensis* (L.) Ooststr. は、四国および九州の南部以南に自生するヒルガオ科の多年草で、県内では三浦半島や平塚市、大磯町で一時的な記録が得られている (神奈川県植物誌調査会編, 2001; 浜口, 2003; 平塚市博物館, 2008)。茅ヶ崎市ではこれまで未記録であったが、筆者の一人である岸 一弘が 2010 年 8 月 31 日に茅ヶ崎市東海岸南四丁目では本種を確認したので報告する。確認できたのは、海岸を浸食から防ぐために作られた T 字型の突堤ヘッドランドの付け根近くで、1 株が石と石の間に自生していた。南方から流れ着いた種子が発芽したものと思われる。



ゲンバイヒルガオ (茅ヶ崎市東海岸南 2010 年 8 月 31 日 岸 一弘撮影)。

9月18日にも生長している姿を確認できたが、10月12日には消失していた。9月24日に発行された『タウンニュース茅ヶ崎版』(1199号)に紹介記事が掲載されたが、この記事で本種の存在を知った人が採取したものと思われる。地味な植物なので採取されるとは思っても寄らなかったが、その後の経過を観察したかっただけに残念である。

報告にあたり、湘南地域における本種の記録についてご教示いただいた三輪徳子氏、浅野牧子氏に感謝申し上げます。

#### 引用文献

- 浜口哲一, 2003. 平塚海岸にグンバイヒルガオ. *Flora Kanagawa*, (54): 652.
- 神奈川県植物誌調査会編, 2001. 神奈川県植物誌 2001. 1584pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
- 平塚市博物館, 2008. みんなの自然アルバム, (44). Available from Internet: [http://www.hirahaku.jp/web\\_yomimono/natalbum/albu0809.html](http://www.hirahaku.jp/web_yomimono/natalbum/albu0809.html)

---

---

## 平塚市土屋でツノアイアシを確認

(岸 一弘・岸しげみ)

ツノアイアシ *Rottboellia cochinchinensis* (Lour.) Clayton (*Rottboellia exaltata* (L.) L.f.) はインド原産のイネ科草本で、これまで神奈川県では未記録であった。筆者の一人である岸 一弘は、2010年10月10日、生物調査に訪れた平塚市土屋で本種を確認したので報告する。当日確認できたのは2株で、



ツノアイアシ (平塚市土屋 2010年10月10日 岸 一弘撮影)。

谷戸奥の牛糞捨て場の脇に自生していた。

報告にあたり、神奈川県における本種の記録についてご教示いただいた三輪徳子氏、埜村恵美子氏に感謝申し上げます。

---

---

## 小田原市のウチワゼニクサ

(岸 一弘・岸しげみ)

ウチワゼニクサ *Hydrocotyle verticillata* Thunb. var. *triradiata* (A.Rich.) Fernald は北米原産の水生植物で、公表された記録は鎌倉市笛田での記録が県内唯一のものである(神奈川県植物誌調査会編, 2001)が、小田原市中曾根の酒匂川右岸を流れる用水でも確認しているので報告する。最初に確認したのは2003年6月9日、富士道橋の下流側であった。その後徐々に分布を拡げ、2010年現在では富士道橋の上流側にも群生している。

#### 引用文献

- 神奈川県植物誌調査会編, 2001. 神奈川県植物誌 2001. 1584pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.



ウチワゼニクサ (小田原市中曾根 2003年6月9日 岸 一弘撮影)。

---

---

## レンブクソウの新産地

(奥津 均)

2011年4月初旬に友人から「自宅の庭で長年にわたってレンブクソウ *Adoxa moschatellina* L. がはびこり、うっとうしいので抜いて捨てている・・・」との私信を受け取り、筆者は「見に行くから抜かないで下さい」と頼み、4月24日に現地へ行った。場所は川崎市麻生区片平で、中心を流れる片平川の南側、近くに川崎フロンターレ・グラウンドがあり、山道を挟んでその南側は東京都町田市鶴川になる。レ

レンプクソウは探して見つかる植物ではなく、筆者も『岩波写真文庫 No.45 野の花（春）』（水島正美指導、昭和26年発行）により名前を知ったが実物を見たのは後年であった。生育している現場は大きな樹木に囲まれた斜面で広葉樹から落ちた葉が適当な腐葉土と変わり、土壌はなく腐葉土だけの培地という状態であった。植物体の大きさは解説に通常15cmとあるが、ここでは平均が20cmもあり生育条件が良好と思われる。個体数は100を越える数量があり、住民には邪魔としか思えない。ここに果実を付けた標本と写真を神奈川県立生命の星・地球博物館へ送り報告する。

標本：川崎市麻生区片平 奥津 均 2011.4.24 KPM-NA0146413.

付記：この辺りで見えるカンアオイ属の植物は、全部がカントウカンアオイであった。『神植誌01』でもカントウカンアオイの分布は麻生区だけであり、多摩丘陵から伸びてくるタマノカンアオイは見つからなかった。タマノカンアオイは現地より北側の多摩区をはじめ、読売ランド、稲城市などで見つかるのでこのあたりが両者の住み分け点ではないかと思う。



レンプクソウ（川崎市麻生区片平 2011年4月24日 奥津均撮影）。



チャセンシダ（相模原市緑区 2011年3月2日 秋山幸也撮影）。

2011年2月、毎日のように丹沢と奥多摩を歩き回り、膨大な分布情報を蓄積されている会員の藤井良造氏から、相模原市内でチャセンシダを発見したと連絡を受けた。県北部ではこれまで確実な記録が無く、いったいどんな場所にあったのだろうか？と興味を持ち、相模原植物調査会の有志と現地へ向かった。

同市緑区、丹沢の北部を縫うように走る林道の突端から歩いて20分ほどの場所に、チャセンシダがあった。溪岸に突き出た岩のくぼみにたった1株であったが、元気な株だった。県内で現存するたった2つの自生地の一つであるかもと、緊張しながら中軸の形状を見てイヌチャセンシダでないことを確認した。

標本：相模原市緑区 藤井良造 2011.5.19 SCM44590.

#### 引用文献

勝山輝男・田中徳久・木場英久・神奈川県植物市町境編, 2006. 維管束植物. 高桑正敏・勝山輝男・木場英久編, 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006, pp.37-130. 神奈川県立生命の星・地球博物館.

## 相模原市内でチャセンシダを確認

(秋山幸也)

チャセンシダ *Asplenium trichomanes* L. は県レッドリスト（勝山ほか, 2006）において絶滅危惧 I A 類にランクされ、近年では箱根町と鎌倉市、南足柄市の3ヶ所で記録があるものの、現存する確実な産地は南足柄市の1ヶ所とされている。

## 2009年以降の横浜市内産植物について

(佐々木シゲ子・野津信子・  
埜村恵美子・和田良子)

前報（野津ほか, 2009）以降、2011年6月までに横浜市戸塚区・栄区・泉区・鶴見区・都築区・緑区で採集し、標本を製作した横浜市内の新産種および希少種について報告する。今回報告する22種のうち、横浜市新産は15種である。そのうち逸出

種 5 種は全て境川遊水地公園で採集されたもので (佐々木ほか, 2011), 県新産種で在来種は, オオタチヤナギ *Salix pierotii* Miq., 帰化種はマルバフウロ *Geranium rotundifolium* L. である。

なお, 以下の記述で, 新産種については『神植誌 01』の分布図より判断し, レッドデータ植物については勝山ほか (2006) のカテゴリーを示した。和名の前の記号は, ★: 神奈川県新産種, ☆: 横浜市新産種, →: 帰化種, ⇒: 逸出種 (外来種で『神植誌 01』で帰化種扱いされていないもの) である。

☆コハナヤスリ *Ophioglossum thermale* Kom. var. *nipponicum* (Miyabe & Kudô) M.Nishida ex Tagawa 公園内古民家前庭にて採集した。

標本: 戸塚区舞岡町舞岡公園 佐々木シゲ子ほか 2008.10.21 KPM-NA10161297.

☆→アメリカミコシガヤ *Carex brachyglossa* Mack.

新治市民の森の湧水脇で神奈川県立生命の星・地球博物館の友の会植物グループの観察会下見時 (2011.5.25) に確認された。県内では 1992 年 7 月 5 日に川崎市麻生区の宅地造成地で一時帰化の記録があり, 2 ~ 3 年同地で生育が確認された。

標本: 緑区新治町新治市民の森 佐々木シゲ子 2011.5.27 KPM-NA0200093.

ヤマアゼスゲ *Carex heterolepis* Bunge

俣野遊水地の流れの岸に一株確認されたが, 種子がわずかに残っている状態であった。来春良い状態のものを標本にする予定である。市内では保土ヶ谷区で 1998 年 6 月に採集されているが, それ以降の記録はない。

標本: 戸塚区俣野町境川遊水地公園 大西亘ほか 2010.6.8. KPM-NA0164926.

☆ヒメモエギスゲ *Carex pocilliformis* Boott 県 絶滅危惧 I A 類

稲荷社のよこの空き地に群生していた。県内では 2000 年 5 月 21 日に城山町での採集記録がある。

標本: 鶴見区獅子ヶ谷市民の森 野津信子 2010.5.3. KPM-NA0164935.

ヒメコウガイゼキショウ *Juncus bufonius* L. 県 絶滅危惧 I A 類

野津ほか (2005) で横浜市新産報告をしたが, 今回俣野遊水地においても, 湿った地面に多く生育を確認した。

標本: 戸塚区俣野町境川遊水地公園 埜村恵美子ほか 2010.6.8. KPM-NA0164924.

★オオタチヤナギ *Salix pierotii* Miq.

長谷川義人氏による現地調査および同定により, ♂株 2 本, ♀株 1 本を確認した。オオタチヤナギの

葯は赤く, 腺体は 1 ~ 2 個である。よく似るジャヤナギは♀株だけが知られ, 腺体は 2 個である。

標本: 泉区下飯田町境川遊水地公園 長谷川義人ほか 2011.4.3 KPM-NA0165614 (♂株), KPM-NA0165615 (♂株), KPM-NA0165616 (♀株).

☆ハマナデシコ *Dianthus japonicus* Thunb.

越流堤で採集した。県内では江ノ島, 葉山の沿海地での記録がある。

標本: 泉区下飯田町境川遊水地公園 埜村恵美子ほか 2010.7.6 KPM-MA0164907.

スハマソウ *Hepatica nobilis* Schreb. var. *japonica* Nakai form. *variegata* (Makino) Kitam. 県 絶滅危惧 I B 類

落葉樹林下の斜面に群生を再確認した。県内では横浜市栄区, 鎌倉市のみの記録がある。

標本: 栄区上郷町 野津信子ほか 2009.2.6 KPM-NA0162056

→コバナキジムシロ *Potentilla amurensis* Maxim. (図 1)

工事中の草原の中に生育を確認した。県内では横浜市戸塚区東俣野 (野津信子ほか 2002.7.5 YCB427149) と横須賀 (1796 年), 相模原市 (1998 年) のみの記録である。

標本: 泉区下飯田町境川遊水地公園 佐々木シゲ子ほか 2009.4.7 KPM-NC0162773.

⇒キダチコマツナギ (チュウゴクコマツナギ) *Indigofera* aff. *pseudotinctoria* Matsum.

野津ほか (2009) で横浜新産報告したが, その後鶴見区でも生育を確認した。市民の森の尾根道の林



図 1. コバナキジムシロ (下飯田遊水地 2009 年 4 月 28 日 日本田昌幸撮影)。

縁にて採集した。

標本：鶴見区獅子ヶ谷市民の森 和田良子ほか  
2010.6.1 KPM-NA0164969.

★→マルバフウロ *Geranium rotundifolium* L.  
越流堤で採集した。

標本：泉区下飯田町境川遊水地公園 浅野牧子ほか  
2009.4.28 KPM-NA0162796.

☆→タチアオイ *Alcea rosea* L.  
園芸種。ビオトープの土手斜面で採集した。

標本：泉区下飯田町境川遊水地公園 和田良子ほか  
2010.7.6 KPM-NA0164912, 戸塚区俣野町境川遊水地公園 野津信子ほか  
2010.6.8 KPM-NA0164921.

★⇒アメリカフヨウ *Hibiscus moscheutos* L.  
園芸種 ビオトープの土手斜面で採集した。

標本：戸塚区俣野町境川遊水地公園 和田良子ほか  
2010.7.25 KPM-NA0164934.

→コマバミソハギ *Lythrum hyssopifolia* L.  
土手斜面で採集した。市内では西区で1999年5月26日の採集記録があるのみである。

標本：戸塚区俣野町境川遊水地 野津信子ほか  
2008.9.9 KPM-NA0161327.

★⇒ヒメイワダレソウ *Lippia repens* Spreng.  
園芸種。草地に群生を確認した。

標本：戸塚区俣野町境川遊水地公園 野津信子ほか  
2008.6.18 KPM-NA0161326, 泉区下飯田町境川遊水地公園 和田良子ほか  
2010.7.6 KPM-NA0164910.

☆→ノアサガオ *Ipomoea indica* (Burm.) Merr.  
標本：鶴見区獅子ヶ谷市民の森の林縁 和田良子ほか  
2010.10.27 KPM-NA0165389, 栄区本郷台環状3号線土手 野津信子  
2010.11.8 KPM-NA0165424.

☆→ヤセウツボ *Orobanche minor* Sm.  
林(2010)により新産報告されたが、すでに2009年4月採集され、標本として納められていた。2ヶ所ともシロツメクサに寄生しているのを確認した。

標本：戸塚区上倉田町柏尾川河川敷 佐々木シゲ子ほか  
2009.4.21 KPM-NC0162815, 戸塚区俣野町境川遊水地 埜村恵美子ほか  
2009.4.28 KPM-NA0162744.

☆ビンゴムグラ *Galium pseudoasprellum* Makino var. *bingoense* Murata & Ezuka  
林内の林道わきで採集した。県内では足柄上郡、相模原市の2箇所をみの記録がある。

標本：栄区公田町荒井沢市民の森 佐々木シゲ子ほか  
2009.10.28 KPM-NA0163697.

☆→オオカワデシヤ *Veronica anagallis-aquatica* L.  
遊水の中で青紫色の花をつけ生育しているのが確認された。やや背丈が低く白い花をつけたカワデシヤもそばに生育していた。県内では川崎市、相模原方面に多く広がっている。

標本：泉区下飯田町境川遊水地公園 佐々木シゲ子ほか  
2011.6.14 KPM-NA0165714.

★⇒モクシュンギク(キバナマーガレット) *Argyranthemum frutescens* (L.) Sch.Bip.  
園芸種。越流堤で採集した。

標本：泉区下飯田町境川遊水地公園 野津信子ほか  
2010.7.6 KPM-NA0164913.

★⇒ダールベルグデージー *Thymophylla tenuiloba* (DC.) Small  
園芸種。越流堤で採集した。

標本：泉区下飯田町境川遊水地公園 野津信子ほか  
2010.7.6 KPM-NA0164905.

→テンニンギク *Gaillardia pulchella* Foug.  
園芸種越流堤で採集した。県内の記録では1952年9月29日の横浜市保土ヶ谷区のみである。

標本：泉区下飯田町境川遊水地公園 野津信子ほか  
2009.9.1 KPM-NA0163665.

#### 引用文献

林辰雄, 2010. 栄区・戸塚区でヤセウツボを記録. *Flora Kanagawa*, (71): 863.

勝山輝男・田中徳久・木場英久・神奈川県植物誌調査会編, 2006. 維管束植物. 高桑正敏・勝山輝男・木場英久編, 神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006, pp.37-130. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

野津信子・和田良子・佐々木シゲ子・埜村恵美子, 2007. 横浜市都筑区と戸塚区の横浜市新産種およびレッドデータ植物. *Flora Kanagawa*, (65): 803-804.

野津信子・佐々木シゲ子・和田良子・埜村恵美子, 2009. 最近確認された横浜市内産植物. *Flora Kanagawa*, (68): 829-830.

佐々木シゲ子・野津信子・埜村恵美子・和田良子, 2011. 神奈川県立境川遊水地公園の花ごよみ調査. *Flora Kanagawa*, (72): 868-870.

---

---

## アズマギクが健在

(勝山輝男)

アズマギク *Erigeron thunbergii* A.Gray は山地の芝草地に生える多年草で、早春に薄紫色の頭花をつけます。神奈川県では1950年代に採集された標

本が多数残されているにもかかわらず、『神植誌 88』や『神植誌 01』などのためのその後の調査では採集されず、『神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006』では絶滅種とされていました。そんな中、昨年、箱根のボランティアの方々が撮影された写真を見せていただきました。今春、外輪山の2ヶ所で開花を確認し、標本は採集しませんでした。写真が撮影することができたので改めて報告しておきます。



アズマギク (足柄下郡箱根町 2011年4月24日 勝山輝男撮影)。

なお、神奈川県からは少しはありますが、十国峠のケーブルカー沿いの芝地にはまとまった群落がある

るので、箱根外輪山には点々と残っている可能性があります。

## 箱根神山のオタカラコウ消滅寸前？

(大西 亘・勝山輝男)

2011年8月3日、駒ヶ岳～神山付近の調査に出かける機会があり、県内唯一のオタカラコウ *Ligularia fischeri* (Ledeb.) Turcz. の生育地を確認することができたので報告する。神山のオタカラコウは『神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006』において、すでに「開花株は数株」とされ、絶滅危惧

I A 類に区分されている。今回も5株を確認できたが、いずれも小さく、今年の開花はあまり見込めそうになかった。この場所では、勝山が1983年と1998年に撮影したオタカラコウの写真があり、比較すると群落の縮小は一目瞭然である。オタカラコウの群落縮小の原因は明らかではないが、現地では遷移による上層の樹木の鬱閉とスズダケの繁茂が進んでいる印象を受けた。



オタカラコウ群落の変遷 (足柄下郡箱根町 左: 1983年9月4日 勝山輝男撮影, 中: 1998年9月4日 勝山輝男撮影, 右: 2011年8月3日 大西 亘撮影)

## 目次

久江信雄：丹沢でキンセイランを発見.....	875
岸 一弘・岸しげみ：茅ヶ崎市でグンバイヒルガオを確認.....	876
岸 一弘・岸しげみ：平塚市土屋でツノアイアシを確認.....	877
岸 一弘・岸しげみ：小田原市のウチワゼニクサ.....	877
奥津 均：レンブクソウの新産地.....	877
秋山幸也：相模原市内でチャセンシダを確認.....	878
佐々木シゲ子ほか：2009年以降の横浜市内産植物について.....	878
勝山輝男：アズマギクが健在.....	880
大西 亘：箱根神山のオタカラコウ消滅寸前？.....	881
田中徳久：次の植物誌に向けて—チヂミザサは1年草か?!.....	882
編集後記.....	882

## 次の植物誌に向けて—チヂミザサは1年草か?!

(田中徳久)

調査会会員の加川晶子さんが、「チヂミザサは多年草ではないのか?」(“草”かの議論は別にし)と、根茎ごと掘り起こされたチヂミザサを大量に持参された。以前より、多年草だと思っていたが、最近の図鑑には1年草と書かれており、確認して欲しいとのことで、さっそく拝見させていただいた。すると確かに、昨年の枯れた花序の残る根茎(古い稈?)から新しい稈が伸びており(写真)、確実に今年の花期には開花しそうであった。

『最新植物用語事典』(清水, 2001; 八坂書房)には、「地下部を含め、植物全体が、発芽後1年以内に開花・結実し、枯死する植物を一年草という」とあり、これが一般の理解であろう。手元の図鑑類を調べてみると、大井『日本植物誌』(1975)記述なし  
保育社『原色日本植物図鑑』(1994)「多年草」  
平凡社『日本の野生植物』(1996)記述なし  
『神奈川県植物誌 1988』(1988)「多年草」  
長田『日本イネ科植物図譜』(1997)「1年草」  
『長野県植物誌』(1997)記述なし  
『神奈川県植物誌 2001』(2001)記述なし



昨年の花序(→)が残る稈から新しい稈が伸びている(⇒)  
(KPM-NA0146411)。

『千葉県自然誌 別編4 千葉県植物誌』(2003)  
「多年草」

『イネ科ハンドブック』(2011)「1年草」

※( )内は参照した刷の印刷年。

とあり、悩ましい結果となった。

植物形態学・発生学や、種生物学的なアプローチにも疎い私には何とも言えないが、この拙稿が、次の植物誌の担当の方へ備忘録になればと思い、記事を寄せた。

## 編集後記

前号は掲載記事の関係で、早くから原稿をお寄せいただいていた岸さん、奥津さん、佐々木さんの原稿は今号に送らざるを得なくなり、せっかくのカラー化の試行も表紙のみでした。今号はその分を…というわけでもありませんが、写真を伴った新産や新産地の報告が集まり、各頁に写真が入りました。また、こしばらくは表紙に写真と目次を入れていましたが、「表紙の写真と記事が分離して見にくい」とのご意見もあり、表紙写真の記事を表紙から初め、目次は最終頁に移動してみました。いかがでしょうか。

さて、年度が変わって4ヶ月ですすでに2号目を発行。これはかなりのハイペースで、年3号どころか4回発行も夢ではありません。…ですが、手持ちの原稿はまったくありませんので、ぜひ、この夏の成果をお寄せください。  
(田中徳久)

### 神奈川県植物誌調査会

〒250-0031 小田原市入生田 499  
神奈川県立生命の星・地球博物館内  
TEL 0465-21-1515・FAX 0465-23-8846  
e-mail kana-syoku@nh.kanagawa-museum.jp  
郵便振替 00230-5-10195  
加入者名 神奈川県植物誌調査会  
年会費 2,000 円